

ベンチャー企業経営者の働きすぎの研究

—働きすぎのベンチャー企業経営者の経営の動機とベンチャー企業経営者のイデオロギ

—

中央大学 前島賢士

1 目的

この報告の目的は、ベンチャー企業経営者のイデオロギーというベンチャー企業経営者が持つイデオロギーに注目して、働きすぎのベンチャー企業経営者の経営の動機やベンチャー企業経営者のイデオロギーとの関連からベンチャー企業経営者の働きすぎを考察することである。データは古いが、2000年代のベンチャー企業ブームが去った2013年現在において、2000年代初頭のベンチャー企業経営者の働きすぎを考察することはベンチャー企業を冷静に考察する上でも価値があることだと思われる。

2 方法

そこで、データとして甲、乙、丙という3人のベンチャー企業経営者に対して2000年9月から2000年10月までに行った面接調査等を用いる。

3 結果

分析の結果、次のようなことが分かった。甲と乙が働きすぎの状況であった。丙は働きすぎの状況ではなかった。また、面接調査において、「会社の経営において、『利益の追求』と『社会貢献』に関して、どのようにお考えでしょうか。次の項目から選んでください。①『主に利益の追求が目的で、社会貢献は考えていない』、②『利益の追求が主だが、社会にも貢献していく』、③『社会貢献が主だが、利益も追求していく』、④『主に社会貢献が目的で、利益の追求は考えていない』」という質問を行った。甲は質問に対して「③社会貢献が主だが、利益も追求していく」、乙は「②利益の追求が主だが、社会にも貢献していく」、丙は「②利益の追求が主だが、社会にも貢献していく」と答えた。甲の場合の「社会貢献」とは「大手電話会社に対抗し、インターネット上で電話代を安くして顧客の役に立つ」であった。乙の場合の「社会貢献」とは「持つ者と持たざる者の差をなくしていく」と「視聴覚障害の人たちがインターネットを使って独立するのに貢献する」であった。丙の場合の「社会貢献」とは「社団法人に対抗して、ネットワーク社会で権利者と使用者の健全な姿を作る」であった。以上を整理すると、甲と丙の経営の動機として「支配力を持つ巨大組織への挑戦」があげられる。乙の経営の動機として「格差の是正」と「視聴覚障害者の自立した生活への貢献」があげられる。さらに、甲、乙、丙はベンチャー企業経営者のイデオロギーである自由主義を持っていた。ベンチャー企業は独立経営の中小規模資本である。独立経営の中小規模資本には自由な発想力が必要となる。しかも、ベンチャー企業は「成長意欲の強い」、「リスクを恐れず挑戦的」な、「新規性」を持つ企業であることから、ベンチャー企業の成長にとって自由な発想力は不可欠となる。こうして、ベンチャー企業経営者は自由主義を持つことになる。この自由主義が「支配力を持つ巨大組織への挑戦」という甲と丙の経営の動機のよりどころとなり、また、「視聴覚障害者の自立した生活への貢献」という乙の経営の動機のよりどころとなる。

4 結論

以上から、次のように結論づける。ベンチャー企業経営者のイデオロギーは自由主義である。この自由主義をよりどころとした「支配力を持つ巨大組織への挑戦」や「視聴覚障害者の自立した生活への貢献」という経営の動機は、働きすぎのベンチャー企業経営者がベンチャー企業経営者として自由主義を持っていたがゆえに、働きすぎのベンチャー企業経営者にとって長い時間を費やしている会社経営に対しての納得となり、会社経営を進めていく動機として強く存在した。こうしてベンチャー企業経営者は働きすぎという状態になっても会社経営を行い続けた。